

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	なでしこデイサービスセンター			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 15日 ～ 2026年 1月 14日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	90名	(回答者数)	56名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 7日 ～ 2026年 2月 10日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 14日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・心理士（公認心理師・臨床心理士・臨床発達心理士）による個別療育を行い、心理的な発達に応じた支援をしている。	・こどもの発達を心理的な側面から客観的に見て、「自己肯定感」や「愛着形成」に係るプログラムを組んでいる。 ・必要に応じて発達検査や視知覚検査を実施し、こどもの特性に応じた関わりをしている。 ・個別療育の担当者を固定し、こどもや保護者と信頼関係を築きやすくしている。	・引き続き、客観的な評価やアセスメントを行い、「こどもの強みを活かした支援」、「弱みに対する環境調整や配慮」が行えるようにする。 ・個別療育で培った力を家庭や集団生活の中でも活かせるよう、保護者や学校等と連携を取りながら、より多くの成功体験につながるようにする。
2	・保護者同伴通所を行うことで、保護者の子育てに対する不安や困りごとを相談しやすい場になっている。	・保護者に療育中の支援場面の観察や参加の機会を提供し、子育ての参考にしてもらっている。 ・療育の状況をフィードバックしたり、保護者の子育てに関する困りごと等に適宜アドバイスしている。	・引き続き、保護者と信頼関係を築き、相談しやすい場づくりに努める。 ・「おしゃべり会」の開催を年1回から2回にし、保護者同士が気軽に話せる場を増やす。
3	・療育場面の見学受け入れや学校訪問を行い、学校生活等が円滑に行えるよう、関係機関と情報共有している。	・こどもの集団生活の様子を把握することで、個別療育の成果や課題を見つけ、次の療育に活かしている。 ・関係機関と顔見知りの関係をつくり、相談・連携しやすい環境にしている。	・引き続き、学校関係者等による事業所訪問を積極的に受け入れて連携を図り、こどもの地域での様々な活動がスムーズに行えるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・集団活動でこどもの交流による成長を促す機会がない。	・小集団療育を年数回実施しているが、プログラミング等の準備に時間がかかるため、実施できる回数が限られる。 ・事業所内のスペースが狭く、親子で6名を超えると受け入れが難しい。	・小集団を含めこども同士が交流できる機会を検討する。 ・個別療育や学校等の活動の中で見えてきた課題や、できるようになったことを相互に循環できるように工夫する。
2	・HPやSNSによる発信が不十分で、こどもや保護者に必要な情報が届けられていない。	・研修等の情報は掲示しているが、HPは法人本部の管轄になっており、リアルタイムで情報発信ができていない。	・HPの運営について法人本部と検討し、情報の更新や周知が速やかに行えるようにする。
3	・こどもや保護者と非常時等の対応訓練（緊急時・防犯時等）ができていない。	・契約時や支援計画更新時のみの説明に留まり、周知・発信する機会が少ない。 ・個別療育なので、利用者全員で対応訓練をすることが難しい。	・各種マニュアルを再確認し、必要があれば修正する。 ・各種マニュアルは保護者が閲覧しやすい場所に置く。 ・各訓練を実施する場合は、掲示板に表示する。 ・個別療育の中でもできる訓練について検討する。